

2020年度 事業報告（案）

特定非営利活動法人 大阪府民環境会議

自 2020 年 4 月 1 日至 2021 年 3 月 31 日

<目 次>

I. 事業の概要

II. 事業の実施状況

1. 地球温暖化防止や地域の環境保全・創造活動への府民の啓発を目的とした教育・ 広報に関する事業

1-1 O P E N c a f é

1-2 E C O もんツアー

2. 地球温暖化防止や地域の環境保全・創造に向けての情報の収集・発信、調査研究に 関する事業

ホームページによる情報発信とネットワークの強化

3. 地域に根ざした持続可能な社会・循環型まちづくり及び環境教育のためのネット ワークづくり、情報基盤の整備に関する事業

1-1 水田など里地里山農空間と生物多様性の保全（水田マコモダケ耕作と拡大）

1-2 大阪府内の生物多様性調査活動（インターン支援事業）

1-3 天神祭ごみゼロ大作戦と給水スポット普及（資源循環社会へ市民参加促進事業）

1-4 再生バイオマス事業研究（里山倶楽部）

4. ネットワーク

OPEN が加盟する団体

III. 総会の開催状況

IV. 理事会の開催状況

V. 会員状況

I. 事業の概要

2020 年度の事業概要

事業の特色は、地球温暖化防止・地球環境の保全に向けた実践行動として3つの事業を多様な主体と実践し、事業化に向け検討を継続し、市民参加を促すことでした。

しかし、世界的なコロナウィルスの蔓延により、世界の都市ではロックダウン、人の往来の禁止など、人と物の流れがストップするという未曾有の事態となりました。我が国においても緊急事態宣言下で、学校の休校、生鮮食料品以外の商業施設の休業、全国のご伝統行事、地域イベント、スポーツ、芸術等のイベントの開催が中止された非常事態、自粛の社会生活でした。

社会活動がしにくい状況でしたが、待ったなしの気候変動による環境悪化を市民個人ができることをしていくために、下記のことを実践しました。

一つには、生物多様性の宝庫とも言われる水田など里地里山の農空間が激減していることから、その保護保全と都市住民の「農」への参画・交流を目的として、2017年から大阪自然環境保全協会と連携し、大阪府内における耕作放棄田畑でマコモダケ（在来イネ科マコモの肥茎）の耕作とその普及に取り組み、これを継続しました。ただ、活動地の能勢町山内の水田は所有者が逝去されたため、2020年3月に返還しました。

二つには、大阪府能勢町天王地区での「スマート農業による中山間地農業振興と関係人口・交流人口の増加」の実証実験が農林水産省の助成を受け進められた。当会の理事である棚田結びの会代表の中崎義巳と情報システム・ソフトウェア開発の（株）アルケミックス、天王ナチュラルファームとの協働事業で進められ、ドローンによる種もみまきの実証田圃の経過観察、昨年度の千早赤阪村の実績である IOT による稲作観察のために通信基地局の設置などすすめられた。さらに休耕田を開拓してマコモダケ栽培がはじまった。次年度にマコモダケの普及のために商品開発を進めていたが、中崎義巳理事が2月10日に急逝されたことは、道半ばで無念としかいいようがありません。マコモダケ栽培状況は、当会のホームページ上にマコモダケ Facebook で逐次情報発信した。

インターンシップ事業では、この天王地区のマコモダケ耕作棚田で、生物多様性調査（トンボ類・哺乳類）を実施し、絶滅危惧種の確認などの成果が得られました。

三つには、資源循環型活動と協働による活動です。

①「天神祭ごみゼロ大作戦実行委員会」は、イベント時におけるごみの分別をすることにより、再資源化を増やす。さらに、ごみの元を断つためにリユース食器の導入実践でした。2017年から3年間大川での「資源分別ステーション」で大きな効果をあげました。しかし、2020年はイベント、祭り事態が亡くなり、ごみゼロ活動を中止しました。ボランティア参加希望が多い中で来年に向けて、実行委員会は継続することになりました。

②プラスチック容器ごみのゼロとマイボトル持参の普及活動として、RefillJapan を運営する NPO 法人水 DO! ネットワークの一員として当会が大阪での事務局団体となり、Refill 大阪の立ち上げと市民アピール行動を水の専門 NPO である水政策研究所と共同行動をし、継続した活動をしていくこととした。なお、大阪府マイボトルパートナーズからの情報発信と参加協力をいただきました。

当会の特色である多様なジャンルの団体のネットワークを活かし、各団体間が互いに情報交換し、多くの市民参加を促し、環境を良くする実践のひろばとして引き続き、行政や事業者、市民

協働を進めました。

II 事業の実施状況

1. マコモダケ水田耕作など里山農空間・生物多様性保全事業

事業概要に記載したように、公益社団法人大阪自然環境保全協会と協働しているチーム農力隊により、能勢町山内の耕作放置水田でマコモダケ耕作を継続し（4年目）、その収穫と、株分けによる他地域へのマコモダケ水田の普及・拡大に取り組んだ。2020年度は、母田の水回りが悪く収量が低下、合計約15kgの収穫となり、関係者や、能勢町内の道の駅「くりの郷」で頒布を行った。また、株分けは、茨木市内、京都府田辺市内、大阪狭山市内の水田等に行い、さらに、山内の母田は、所有者逝去のためご遺族に返還したが、すべての株を、能勢町天王・東山等の放置水田に移植した。

活動実施日・活動内容／延べ31人参加

4月25日（土）ありがとう農園の母田で株起こし・田植の実習、株分け

7月19日（日）雑草取り・葉っぱ刈り

9月30日（水）～18日（木）収穫 計5日（回）

12月27日（日）枯草刈り・整備

3月27日（土）母田の撤収・均平・整備、すべての株の天王への運搬・仮植え

予算額 100,000円

執行額 10,000円

差引残高 90,000円



収穫したマコモダケ

OPENcaféをNAZ（環境情報誌ピコ/
グリーンコンシューマー大阪ネットワーク）と共催

OPENcafé 穂りの秋
マコモダケを食べよう

日時 2020年11月12日(木) 17:30-19:30
場所 ほぼエコcafé & Gallery NAZ (ナース)
アクセス 大阪メトロ堺筋線・阪急千里線「関大前」下車
徒歩5分 関西大学正門の1本手前を左へすぐ

内容 大阪のてっぺん 能勢・豊能産
マコモダケの栽培・効能のお話。
食事メニュー まこも茶吹き込みご飯
まこもの味噌汁
まこもの炒め物と天ぷら
まこもの佃煮、粕漬
まこものお土産付き

講師 マコモ王子の渡辺友和さん
(姿勢講師、鍼灸師、ヨーガインストラクター、
momentum 姿勢バランス研究所主宰、大阪ぐりぐりマルシェ実行委員等)

会費 2,000円 ワンドリンク付き
定員 10人
申込メール office@npo-open.org

共催 NPO大阪府環境会議
ほぼエコcafé & NAZ (ナース)
TEL 06-7222-8005
〒565-0842 吹田市千里山裏1-14-26

内容 報告渡辺友和さん
マコモダケの効能、抗菌・抗酸化を活かした食育と染色など普及のお話後、試食会をした。

参加者 12人

支出 講師謝金 5,000円
共催のため、材料費、会場費、飲み物代は参加費（24,000円）から支払。

2. 能勢天王地区におけるスマート農業支援

2019年の千早赤阪村の棚田づくりでは、棚田オーナーのスマホに稲の成長を伝えるIOT（自動撮影カメラ）の実績を踏まえ、水田づくりの継承者も少なく高齢化しているため、IOTでの獣害対策や通信機器を駆使して稲作の支援の実証実験が始まった。

当会は、多くの方が興味を持ち参加しやすいマコモダケ栽培に取り組んだ。その栽培状況を逐次発信する情報発信としてマコモダケ Facebook への UP を支援しました。

予算 80,000 円

執行額 80,000 円

差引残額 0 円

水2F07 天王ナチュラルファーム (大阪府豊能郡能勢町) 実証面積: 20.6ha

実証課題名 スマート農業による中山間地農業振興と関係人口・交流人口の増加

構成員 (株)アルケミクス、榎田米穀、榎田むすびの会、(特非)榎田ネットワーク、(特非)大阪府長理議会議、能勢町 環境創造部 地域振興課(産業振興係)、大阪府 北摂農と緑の総合事務所 農の普及課、天王ナチュラルファーム

【背景・課題】
 ○大阪府能勢町の天王地区は、大阪府最北端に位置し、“大阪のてっぺん”と言われる、標高約500m、57世帯(うち農家戸数48戸)、耕地面積38.9ha、人口約130人の小さな集落です。
 この小さな集落でも、スマート農業技術を活用して生産性向上、収益向上、生活環境の改善を実現できることを実証するべく計画を策定しました。
 ○3つのゾーンごとに中山間地域特有の課題に取り組みます。
 「居住ゾーン」 中心エリア、省力化・品質・収量アップ、獣害対策、防災・減災対策
 「西山ゾーン」 不整形で水はけの悪い圃場、獣害被害、携帯電話のエリア外
 「東山ゾーン」 大半が遊休農地、関係人口・交流人口を増やすための農業観光の拠点

居住ゾーン(中心エリア)

 西山ゾーン(精華農苑)

 東山ゾーン(休耕地)


本実証プロジェクトにける想い
 「小さな集落でも、高齢化が進み、数少なくなった担い手を守りたい! 農業を盛り上げて、先祖代々からの田畑・山・家を次世代になんとかして繋げたい!」という地域の方の想いをスマート農業によって実現し、天王地区が多くの目から注目され、関係人口・交流人口が増加し、昔のような活気ある集落の姿を取り戻し、同様の課題を抱える全国の中山間地の生産者の皆さんに希望を発信します!

【目標】
 ・水稲の収量アップ: 5-10%増、グリーンツーリズムの売上獲得
 ・作業時間短縮: 移植1/6、水回り最大75%、草刈り最大40%、異見回り最大90%
 ・労働安全の確保: 農作業事故ゼロ、豪雨や台風時の事故ゼロ

【実証する技術体系の概要】

要素技術 A ドローンによる水稲播種・育苗管理 B 地域LoRaWANネットワーク C 水見回り支援システム
 D マコモダケ生育管理システム E 農業観光用空撮映像のAI自動編集 F ラジコン草刈機 G 獣害の最速設置と監視システム

時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
「見られる!」ポイント												

【問い合わせ先】
実証代表 株式会社アルケミクス
 視察等の受入について 株式会社アルケミクス 06-6942-3229 担当 森田



ドローンで直播した作付け稲田の案内をする在りし日の中崎義巳理事 (2020.8. 23)

4. インターン生によるトンボ類・哺乳類 生息状況、生物多様性 調査

インターン生: 石川 裕花 神戸女学院大学人間科学部環境バイオサイエンス学科 3 回生

調査期間: 2020 年 6 月~2021 年 2 月

調査箇所: 大阪府能勢町天王・東谷・放置棚田のマコモダケ耕作による復旧水田

成果物: 復旧した棚田における生物多様性の様相を、トンボ類と哺乳類の生息状況調査を通じて把握し、絶滅危惧種 5 種を確認するなど貴重なデータを得ることができた。調査報告書は、関西環境教育学会の会報に掲載(予定)。

課題: 経年調査や、調査期間を 4 月~に繰り上げるなどにより、取り組みを継続したい。大阪府内の放置水田の生物多様性の低下等現況をつかみ、生物多様性の保全・向上のため、放置水田の維持・管理方法などの政策提言が必要と考える。

予算額 80,000 円

執行額 45,930 円

残高 34,070 円

5. 天神祭ごみゼロ大作戦 2020 と給水スポット普及活動

【事業の目的】

地球温暖化を防止するための個人の活動として、資源循環の体験の場をひろめていくことです。一人一人が使い捨てをやめ限りある資源を次の世代に引き継ぎ、大量消費をやめることです。日常に発生するごみ問題から環境を良くする活動を通じてコミュニケーション力が深まり、資源を大切にすることが人の命も大切にすることの気持ちに繋がり、地域の問題を積極的にかかわる人材育成など副次的な効果が得られます。

コロナウィルスの世界的な蔓延により、3月末から学校、公共施設などが閉鎖され、各イベント、祭りが中止になり、天神祭も境内神事のみとなり、ごみゼロ大作戦は中止した。

プラスチックごみゼロはG20での世界共通課題であり目標達成にむけ、「大阪府・大阪市プラスチックごみゼロ宣言」を出し、達成目標を2030年とした。使い捨てのペットボトルからマイボトルを持参を加速させるために、街に無料で補給できる水道水直結式冷却器の普及のPR行動と実践をした。

【実施内容】

①Refill大阪設立総会 日時 8月30日、会場 PLP会館 17団体30人参加

PR行動 a. 日時 8月22日(土) 13時-15時

場所 天神橋筋6丁目商店街入口付近(地下鉄天神橋筋六丁目駅)

参加者 8人

b. 日時 8月30日(日) 15時30分-17時

場所 天神橋筋2丁目商店街入口付近(地下鉄南森町駅)

参加者 6人

内容 各国の給水機の写真展など掲示、マイクによるPR。

アンケート呼びかけ マイボトル持参してるかなど 各約120人が回答

②万博ロハスフェスタで給水機の実演とPR

(大阪府マイボトルパートナーズのブースと入口)

日時 11月7, 8日(土日) 10時~16時

会場 万博公園駅東口会場

参加 2日間ボランティア 延べ14人

内容 紙芝居、給水機のデモンストレーション



8月30日キックオフ集会



天神橋六丁目商店街入口でマイボトル持参アンケートPR行動

③Refill 全国サミット交流会

日時 2月13日(土)

京都会場とWEB参加

全体 9地域26人 大阪から会場 1人、WEB 2人 参加

※コロナウイルスによる自粛がつづいているため、14日の見学会等は中止1日型となった。

【事業実施の成果】

熱中症対策も重要な課題であるので、市民の関心は高く、街頭でのアンケート調査でもマイボトル持参かどうか、街角に給水機があれば利用したいなどの回答を得られた。

他のNPO、NGO、企業団体等の関心も高く今後連携して普及していくこととした。

【事業費】

予算 50,000円

支出 0円

残高 50,000円

事業費の62,840円支出したが、NPO水政策研究所、水DO!ネットワーク(地球環境基金助成金)より賄われた。

6. 木質バイオマスエネルギー活用事業

廃棄物処理されている大阪市内の公園や街路樹などの木質資源を燃料加工しエネルギー活用することで、処理費の削減と共に化石燃料代替による二酸化炭素の削減を図ることを、大阪市公衆浴場組合との協働事業にむけ、実態調査と建設局等の話し合いを進めようとしたが、コロナウイルス蔓延による行動自粛のため、交渉含めて活動できなかった。

予算額 20,000円

執行額 0円

残高 20,000円

OPENが加盟する団体(加盟順)

1. なにわエコ会議

大阪市が設置した市民・環境NGO/NPO・学識経験者・行政が参加する協議会にNPOとして参加

2. 自然エネルギー市民の会

自然エネルギー普及を進めるための活動を目的に2004年に設立。

3. 温暖化防止ネットワーク関西

関西における地球温暖化防止活動のネットワーク。世話人として参画。

4. 生物多様性かんさい

COP10を機に関西圏に拠点のある市民団体でつくったネットワーク

5. 大阪ごみ減量推進会議(2011年10月1日設立)

大阪府民環境会議の3R分野のネットワークおよび活動の継続・強化を目指して参画。

6. 大阪びんリユース推進会議(2014年2月19日設立)

7. 社会福祉法人大阪ボランティア協会

8. NPO法人 エコネット近畿

Ⅲ.総会の開催状況

第17回通常総会の開催

2020年6月20日

ほぼエコCafé&Gallery NAZ (吹田市千里山東 関西大学前)

参加者：15人 (内委任状 7人)

Ⅳ.理事会の開催状況

第1回理事会 4月25日/全大阪消費者連絡会・会議室

第2回理事会 6月20日/ほぼエコCafé&GalleryNAZ

第3回理事会 7月16日/全大阪消費者連絡会・会議室

第4回理事会 11月12日/ほぼエコCafé&GalleryNAZ

第5回理事会 2021年2月17日/ほぼエコCafé&GalleryNAZ

Ⅴ.会員状況

正会員 団体 15

正会員 個人 7

賛助会員 団体 0

賛助会員 個人 2

役名	氏名	所属
理事長	木内 功	個人会員・
副理事	大塚 憲昭	特定非営利活動法人里山倶楽部
専務理事	山口百合子	特定非営利活動法人 グリーンコンシューマー大阪ネットワーク
理事	松本 一美	特定非営利活動法人 One World for Children
理事	山崎 博文	Rびんプロジェクト
理事	岡 秀郎	公益社団法人大阪自然環境保全協会
理事	西村 優子	大阪びんリユース推進協議会
理事	中崎義己	棚田むすびの会代表、 6次産業化プランナー
監事	新川 達郎	個人会員 (同志社大学大学院総合政策科学研究科教授)